

道内各地で進展する地方創生プロジェクトの最前線をクローズアップ！

## 北海道創生ジャーナル

# 創る

Vol. **25**

2023.10

その先の、道へ。北海道  
Hokkaido.Expanding Horizons.

## CONTENTS

### 特集

## 01 地域の仕事を組み合わせ、 年間を通じた仕事を創出

### ／特定地域づくり事業協同組合制度

- 浜益特定地域づくり事業協同組合
- なよろ地域づくり事業協同組合

## 05 地域が動く・プロジェクト最前線

- 南幌町 子ども達の笑顔を育む交流拠点 ～子育て世代の移住促進を目指して～

07 知事が地域訪問する機会に地域で活躍されている方をお訪ねし、その様子を紹介

### 「なおみちカフェ」から ～地域創生のヒントを探る～

- 後志編 道の駅「くろまつない」(トワ・ヴェールⅡ)
- 宗谷編 礼文町移住定住・人材交流拠点施設「袋澗」

09 地域に新たな風を吹き込む

## 地域おこし協力隊へのインタビュー

- 森町 木村 一夢さん 小川 航輝さん
- 美幌町 一戸 現貴さん



特定地域づくり事業協同組合制度の概要

根拠法：地域人口の急減に対処するための特定地域づくり事業の推進に関する法律（令和2年6月4日施行）

人口急減地域の課題

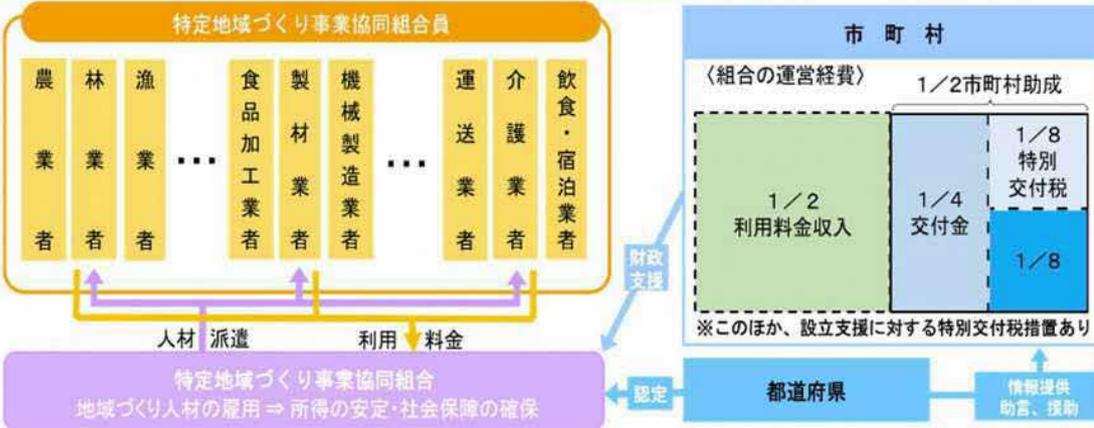
- ・事業者単位で見ると年間を通じた仕事がない
  - ・安定的な雇用環境、一定の給与水準を確保できない
- ⇒人口流出の要因、UJターンの障害

特定地域づくり事業協同組合制度

- ・地域の仕事を組み合わせて年間を通じた仕事を創出
  - ・組合で職員を雇用し事業者に派遣（安定的な雇用環境、一定の給与水準を確保）
- ⇒地域の担い手を確保

人口急減法の概要

対象：人口規模・人口密度・事業所数等に照らし、人材確保に特に支援が必要な地区として知事が判断  
※過疎地域に限られない  
認定手続：事業協同組合の申請に基づき、都道府県知事が認定（10年更新制）  
特例措置：労働者派遣法に基づく労働者派遣事業（無期雇用職員に限る）を届出で実施可能



総務省ウェブサイトから抜粋

特集

地域の仕事を組み合わせて、年間を通じた仕事を創出

特定地域づくり事業協同組合制度

▼どんな制度？

特定地域づくり事業協同組合制度とは、地域人口の急減に直面している地域において農林水産業、商工業等の地域産業の担い手を確保するため、複数の事業に従事する労働者を派遣する「特定地域づくり事業」を行う事業協同組合に対して財政的・制度的な支援を行うものです。

※定の地域において地域社会の維持が著しく困難となるおそれが生じる程度にまで人口が急激に減少した状況（人口急減地域特定地域）の推進法

▼事業者と働き手の双方にメリット

農業、漁業、宿泊業などの地域産業は、短期的な仕事が多く、通年雇用が難しいことから人手不足に陥りやすいという課題がありますが、本制度では、こうした地域産業の複数の仕事を組み合わせ、通年の就業機会を創出することで、地域に安定的な雇用環境と一定の給与水準を確保した職場を作り出すことができ、地域での就労を希望する働き手が安定的な仕事を確保できるなど、地域事業者と働き手の双方にとってのメリットがあります。本制度を活用することで、地域産業の担い手不足を解消することに留まらず、地

▼支援内容は？

域内外からマルチワーカーとして働く若者等呼び込むことで、地域事業者の事業の維持、さらには拡大を図ることが期待できます。

※季節毎の労働需要等に応じて複数の事業者の事業に従事する労働者

制度の具体的な支援としては、中小企業等協同組合法に基づく事業協同組合が、特定地域づくり事業を行う場合について、都道府県知事が一定の要件を満たすものとして認定したときは、労働者派遣事業（無期雇用職員に限る。）を許可ではなく、届出で実施することを可能とする。ともに、組合運営費について財政支援を受けられます。財政的支援としては、組合運営に必要な人件費や事務局経費のうち、2分の1を市町村等が半分負担して交付金として支援し、残りは組合が事業収入で賄うことが求められます。交付対象経費の上限額は、組合職員の人数が一人あたり年間400万円、事務局運営費が一組合あたり年間600万円となっています。

▼地域活性化に貢献  
「地域づくり人材」

地域産業における繁忙期の人手不足を解消する派遣職員は、地域社会の維持と地域経済の活性化に貢献する「地域づくり人材」としての活躍が期待されます。

こうした「地域づくり人材」は地域外からの移住者が担い手となる事例もあることから、今後、地域事業者を起点として仕事をつくり、北海道への移住を考える人の受け皿となる可能性が期待されます。

▼どんな組合があるの？

道内では、令和3年に下川町の組合が初めて認定を受け、現在は6組合が認定を受けています。組合職員の派遣先としては、主に農・林業などの一次産業が中心ですが、その他に、飲食・宿泊業、自動車整備や運送業など、様々な業種に派遣されています。特に、農業の仕事の多くは季節性の業務で、通年雇用が難しい事業者が多いため、組合によって、地域の実情に応じて工夫しています。

全国では、89組合が認定されており、派遣先についても農業、林業が最も多いものの、製造業や小売業も一定の割合を占めており、一次産業を中心に二次・三次産業を組み合わせた派遣を行う組合が多い状況です。多くの組合では、地域の多様な業種の繁忙期の組み合わせを考慮しながら通年の業務を組み込むことで、安定した仕事の創出を図っています。

■北海道認定状況（R4年度実績）

市町村名	認定日	概要
下川町	R3.2.22	・17事業者（その他の小売業、農業等） ・3名雇用
中頓別町	R4.2.22	・13事業者（林業、宿泊業、飲食店等） ・2名雇用
初山別村	R4.3.14	・10事業者（道路貨物運送業、農業等） ・3名雇用
名寄市	R4.3.14	・5事業者（道路旅客運送業、農業等） ・3名雇用
石狩市	R4.4.25	・6事業者（漁業、農業、飲食店等） ・2名雇用
遠軽町	R4.4.28	・6事業者（農業、道路貨物運送業等） ・4名雇用

地域づくり人材の確保にあたっては、ハローワークや転職サイト・求人サイト等を活用して公募する組合が多く、地域内外の多様な人材の確保に向けて取り組んでいます。こうした情報発信にあたっては、多くの組合が労働者派遣事業で実施する仕事の内容や雇用の条件などをウェブページなどで発信しています。

今回は、道内で認定された組合の中から、創意工夫を凝らして年間を通じて地域の雇用を創出し、地域づくり人材の確保に努めている組合を次頁で紹介します。

参考「令和4年度特定地域づくり事業協同組合制度に関する調査研究事業報告書概要版」

▼設立までの流れ

STEP 1 組合員の確保

組合をつくるにあたって、次に留意して組合員となる事業者を見つけます。

- 必要事業者数「4者以上」
- 制度の周知・理解促進

- ・町内事業者を対象としたアンケートを実施など
- ・人材・後継者確保に課題を持つ事業者への声かけなど

事業者の組み合わせに制限はないため、農業や林業、介護事業や食品関係など多岐にわたる事業者を組み合わせることで、地域の活性化にもつながります。

STEP 2

組合事務局職員の確保

- 事務局を担う職員の確保

会計年度任用職員や地域おこし協力隊のOBやOGの方に職員になっていただくなど、事務局運営には欠かせない職員の確保に努めます。



STEP 3

関係機関への事前相談

組合設立に向けて必要となる手続きについて事前に関係機関へ相談をします。

- 【各手続き相談先】

- 特定地域づくり事業協同組合の認定  
手続に関する相談  
↓北海道
- 労働者派遣事業の届出に関する相談  
↓北海道労働局

STEP 4

組合の認定手続き

- 申請書類の提出  
↓北海道↓確認の上認定

本制度は市町村から事業協同組合への補助事業となるため、予め市町村との協議が必要です。

STEP 5

労働者派遣事業の届出

- 届け出書類等を提出  
↓北海道労働局↓確認の上受理

STEP 6

地域づくり人材（派遣職員）の募集方法の検討をスタート

■事業の開始に向けて、地域づくり人材となる派遣職員の募集方法を検討  
インターネットや市町村役場の定住相談者への情報提供や移住相談会にて情報発信を積極的に行い、人材を確保していきます。

浜益特定地域づくり事業協同組合 石狩市

地域密着型で人手不足を解決  
浜益のマルチワーク「浜ワーク」

石狩市浜益地区に創設された「浜益特定地域づくり事業協同組合」（通称：浜ワーク）で事務局長を務め、組合立ち上げに尽力された徳地さんにお話を聞きしました。

▼組合が設立されるまで

石狩市浜益地区は、札幌市から北に80kmほどの場所にある海と山に囲まれ、豊富な自然資源のもとで、多くの方が、漁業、農業などを生業としています。

年々、人口減少や高齢化が進んでおり、地域の各事業者からは人手不足を懸念する声が多くあがるようになりました。この先、さらに厳しい状況が予

想される中、漁業を営む徳地さんが人手不足について市役所に相談した際に、この制度を紹介されました。この地域は古くから、人手を要する時季に手助けするアルバイトをいくつも掛け持ちする人が多くいるなど、この地域の持つ風土等も後押しとなり、地域と同じ課題に悩んでいた事業者に制度活用をもちかけたところ、すぐに活用に向けて取り組みむことが決まりました。組合の立ち上げにあたってはスピード感を重視したという徳地さん。申請等の手続きを一手に引き受け、令和4年に「浜益特定地域づくり事業協同組合」を設立しました。



プロフィール  
徳地 克実 (とくち かつみ)

札幌市出身。土木関係の仕事を経験し、アルバイトとして船に乗ったことをきっかけに、そのまま石狩市に移住、30歳で漁師として独立。現在は事務局長として、漁師と事務局のダブルワークを行っている。

▼「浜ワーカー」としての働き方

現在、組合には水産事業者が4箇所、農業が2箇所、飲食店1箇所、観光業1箇所が参画し、浜益で働くマルチワーカーを「浜ワーカー」の愛称で派遣しています。主な派遣パターンでは、春から8月にかけては農業、9月から冬季は漁業を中心に、その合間に水産

加工業や飲食店などに派遣されます。就業時間も職種によって違い、漁業は夜中1時半の船に乗り、翌朝10時頃に戻ってくるという働き方もあれば、飲食店に派遣された場合は、朝9時から夕方6時までなど、働き方も様々です。現在は3名が浜ワーカーとして採用されており、3名とも地域外から浜ワークをきっかけに移住してきた方々です。こうした方々に地域コミュニティにも参画してもらおうことで、地域の活性化にもつながります。

▼地域に溶け込める人材の確保

人材確保にあたっては、主に移住希望者向けの職業マッチングサイトなどを活用し、昨年は、千件近くの問い合わせがありました。そのうち8割が道外からの問い合わせで、マルチに働く浜ワークに興味を持って問い合わせる方が多いそうです。浜ワーカーとして働くということは、地域外からの地方移住を伴うケースがほとんどのため、採用面接の際に徳地さんが特に重要視しているのは「コミュニケーション能力」。人間関係が濃い「田舎暮らし」に溶け込める人を特に重視して採用しています。



仕事は漁業・農業・飲食業などいろいろな職種があるため、得意、不得意はそれぞれありますが、事務局と相談しながら、うまく仕事がしやすい環境づくりに励んでいます。

さらに、徳地さんは地域外から若い人材に働いてもらうためには、労働環境を整備することも必要と考え、事業者側の働き方の意識改革にも取り組み、手応えを感じています。今後は、こうして移住してきた浜ワーカーの地方暮らしと仕事の両面をサポートしていきます。

▼今後に向けて

実際に制度を運用する中で、冬場の派遣先が足りなくなるなど、課題も見えてきました。安定的な組合運営を目指すためにも、派遣先となる事業者の確保も今後の課題です。「組合に入りたい」と言っている事業者は結構多いのですが、組合から派遣する場合の賃金を一律としているため、現在雇っているアルバイト従業員との賃金の格差があるなど、最初に戸惑う方が多いですが、少しずつ事業者も増えてきています。」と徳地さんは語ります。

今後は、さらに安定的な組合運営のためにも、自主事業も拡大していきたいという徳地さん。「地域産業を支え、いずれば浜益地域全体を支える組合になりたい。」と徳地さんは意気込んでいます。

なよろ地域づくり事業協同組合 名寄市

J A 主導の組合立ち上げ  
地域の雇用の受け皿へ

名寄市では、J A 道北なよろが主導となって「なよろ地域づくり事業協同組合」を立ち上げました。J A 職員から出向という形で組合の事務局長を務める寺田さんにお話をお聞きしました。

▼組合設立の背景

名寄市は、北海道北部の中核都市で、農業を基幹産業とし、雪質日本一のスキー場やカーリング場などの冬季スポーツの観光資源にも恵まれています。一方で、他の地域と同様に、人口減少に伴う生産年齢人口の減少から、地

域の基幹産業である農業の人手不足が深刻でした。また、市内のタクシィ事業者はドライバーの高齢化や、特に冬季のドライバー不足も課題となっており、加えて、市内の大規模工場の操業停止などで人口流出も懸念されています。

こうした状況の中、地域の人手不足解消や雇用の受け皿となることを目指し、令和4年3月にJ A 道北なよろが主導となって「なよろ地域づくり事業協同組合」を設立しました。

組合では農業、酪農業、タクシィ会社等への派遣を行っています。主な業務内容としては、夏は穀類や米の積み下ろし、乳用牛の育成や牧場管理、冬はタクシィやバスの運行などさまざまです。名寄市では、農作物の収穫や資材の搬出など、多くの働き手が必要としており、これらを解決するために、まち全体で取り組んでいく必要があります。



プロフィール

寺田 勝志 (てらだ かつし)

名寄市(旧風連町)出身。学校卒業後、地元に残り農業関係に従事したいとの想いから農協に就職。現在は事務局長として、組合の安定的な運営に日々奮闘中。



▼人材と業務量の確保に向けて

組合設立から1年あまりのため、まだまだ発展途上であると話す寺田さん。現在は、2名の組合職員が勤務しており、いずれも、操業停止となった市内の大規模工場関連の元従業員で、地域の雇用の受け皿となりました。市の人口は減少しているものの、全国や北海道と比べてコロナ禍においても名寄市の求人倍率はそれほど下がっていないことから、人手不足を解消するべく組合への期待も大きいです。

今後の課題として、まずは、派遣労働者の確保が重要です。移住対策の一つでもあります。市外をはじめ道外からの派遣労働者の確保を目指して、市と連携しながら周知などに努めるなど、人材の確保を第一に奮闘しています。あわせて、安定的な組合運営のためにも、年間を通して一定の業務量を確保することも重要です。組合が地域の雇用の受け皿となるためにも、今後

も様々な業種の組合員を増やし、組合の拡大を目指します。

▼活気あるまちづくりへ

市内事業者の働き手確保とともに定年退職をした方の市外流出を阻止し、地元で働き続けるための受け皿として、組合の役割はとて大きいです。マルチワーカーとして働く場があることによって、市外からの人を呼び込み、地域の特性をいかした組合の経営基盤の確立を目指していきます。

「人を呼び込むためには仕事は欠かせない。これからもまちの事業者や市とも連携しながら、地元で働き続けてもらえるように体制を整えていきたい」と寺田さんは意気込んでいます。





## 子ども室内遊戯施設「はれっぱ」

「晴れた日の原っぱで遊ぶ様子をイメージして考えた」という南幌小学校の児童の案が採用されました。



南幌町

# 子ども達の笑顔を育む交流拠点 子育て世代の移住促進を目指して

### 子育て世代の移住施策

南幌町では、「将来にわたり子どもたちと笑顔で暮らせるまちづくり」の実現を目指し、子育て支援策として、高校生まで医療費無料化、学校給食の主食（米・パン・麺）費用全額補助、高校生の通学費補助などの施策を実施しています。

住宅施策においても、中学生以下の子どもがいる世帯又は夫婦共に40歳未満の世帯を対象に最大200万円の住宅建築費を助成する「南幌町子育て世帯住宅建築費助成事業」や宅地価格の割引などの取組により、町外からの移住者が増加傾向にあります。

町は、この効果を持続させるとともに、子育て世代にとって魅力的なまちを目指し、町民の声をしっかりと反映する環境整備を進めてきました。

### 新たな子育て施策

子育てしやすい環境整備に向けて、実施したアンケート調査や子育て世代へのヒアリングにおいて、「遊び場や遊ぶ機会の充実」や「天気の良い日や冬場も遊べる室内の遊び場」を希望する声が多く挙がりました。他にも、小



▲子育て世代へのヒアリングの様子

中学生が友達と自由に集まる「居場所」を求める声や、移住者を含めた母親が気軽に集まり、子育ての悩みを共有するなど、繋がりを求める場が必要という声も寄せられました。

こうした地域住民の声を形にすると併せて、平成30年に近接する北広島市に日本ハムファイターズのボールパーク建設が決定したことや南幌町の市街地付近を経由する道央圏連絡道路が将来的に開通することで、人の流れが大きく変わることが予想されることなどから、札幌圏を中心に町外から多くの子育て世代を呼び込むことで交流を生み出す、子ども室内遊戯施設を整備することとしました。建設場所は、来町者に市街地の暮らしの様子を思い起こさせるという点から、市街地にある公園の中になりました。

南幌町は、札幌市と新千歳空港から車でそれぞれ約45分の場所に位置し、広大な平野をいかした農業が基幹産業です。令和5年5月3日にオープンした子ども室内遊戯施設「はれっぱ」を紹介いたします。

地域の交流拠点

令和5年5月、町民待望の子ども室内遊戯施設がオープンしました。

施設名は、町内児童からの公募で「はれっば」と名付けられました。

「はれっば」は、遊戯エリアと休憩エリアから構成され、子どもから大人まで居心地良く過ごせる空間になっています。

休憩エリアのカフェスペースでは飲食等の利用がなくても自由に使用できるため、幅広い世代の方が利用する憩いの場となっています。

当初カフェスペースを設置する予定はありませんでしたが、カフェコナーを希望する町民の声や、町内中学生からの学生の居場所がほしいという意見を踏まえて、カフェ店を設置しました。

「はれっば」が建設された公園全体のリニューアルが令和5年度中に完了する予定で、キッチンカースペースを含むイベント広場も完成します。イベント広場では、地域の団体や飲食店が出展することで、「はれっば」に遊びに来た人が町のことを知るきっかけとなり、町の魅力を知ってもらい、将来的に移住の検討に繋がることを期待しています。



▲南幌町キャラクター キャベッチくん



▲休憩エリアにはテーブルと椅子が備えられ、小中学生が放課後に集って宿題をするなど、居場所となっている。



- 利用料金  
町外利用者 300円  
町内利用者 100円  
保護者 無料※  
※子ども供の見守りをしてもらいたいという想いから無料

▲有料ゾーンの遊戯エリアは、乳幼児から小学生までを対象とした遊具やアスレチック、知育玩具が設置され、体いっぱい遊ぶことができる。遊びを通じて子どもの「好奇心、創造性を育む」ことや「運動能力の向上」に繋げることを目的としている。



「はれっば」に込められた想い

開館後約4か月で来館者数が10万人を突破し、町内外から注目が集まっている「はれっば」。町外から「はれっば」を目的に訪れた人が地元の商店や飲食店に立ち寄るなど、周遊も生まれています。

構想時から携わった前田主査に「はれっば」に込められた想いをお聞きしました。

「はれっば」をひとつのきっかけとして、幼い頃の楽しかった思い出が記憶として残り、大人になって一度町を出たとしても、その記憶と住みやすい環境に惹かれ、また南幌町に戻ってくる、そんな循環を作りたい」と想いを熱く語ってくれました。「はれっば」の整備にあたり、南幌町に生まれ育ったことを誇りに思ってもらいたいという想いから、地域住民と「10年後も子ども達という風景」というイメージを共有したといいます。

これからも移住定住のきっかけや、南幌町で暮らす子ども達が町に愛着を持つために、「はれっば」をいかしたまちづくりを展開していきます。

お話を伺った方



南幌町役場まちづくり課

前田主査

# 『なのみちカフェ』から

～地域創生のヒントを探る～



▲懇談に参加された皆さんと。黒松内町では、北限のブナ林をはじめとする優れた自然をいかし、都市との交流を図るまちづくりを進めている。

黒松内町  
後志編

なのみちカフェ

鈴木知事が、北海道創生に向けて、様々な分野で活躍されている方をお訪ねし、その取組や地域への思いなどをお聞きしています。同行した職員から皆様とその様子をお伝えします。

令和4年12月16日訪問

## 道の駅「くろまつない」(トワ・ヴェールII)編

今回まずご紹介するのは、「ブナ北限の里」として知られる黒松内町にある、特産物展示販売施設の顔を併せ持つ、道の駅「くろまつない」(トワ・ヴェールII)です。

札幌・函館間を結ぶ国道5号線に位置し、道央自動車道黒松内JCTからも近く、「黒松内の玄関口」として、連日、町内外から訪れた多くの方々と賑わっています。

町の特産物展示販売施設として平成11年にオープンし、豊かな自然に育まれた牛乳をはじめとする町の農畜産物の新鮮な素材をいかしたチーズやアイスクリーム、ラム、ソーセージなどの販売に加えて、施設内で調理する道産食材を使った手づくりのパンやピザが特に人気で、休日になると行列ができるほどの賑わいを見せています。

また、町産「奈川そば」の知名度を高め、町を元気にしようと、町出身で札幌の高校生が授業の一環で考案した「奈川そば」を使用したガレット(そば粉のクレープのような料理)を用いたメニューを開発し、好評を博しています。

※トワ・ヴェールIIについて  
「トワ・ヴェール」はフランス語で「緑の屋根」、「II(ドゥー)」は「2番目」を意味し、平成5年に先んじて町が整備・運営を始めた特産物手づくり加工センター「トワ・ヴェール」の製品の販路拡大を目的に整備されたことから、このネーミングが採用されました。

黒松内町では、国の天然記念物

や北海道遺産にも選定されている「北限のブナ林」を古くからシンボルとして掲げ、昭和62年に「ブナ北限の里づくり構想」が町民有志から提言され、都市と農村の交流を基本理念として、可能な限り地域内の人材・資金を活用したまちづくりが進められてきました。

道の駅での取組のほか、ブナ林を中心とした自然体験と地域の方々との交流を組み合わせたツアーや、ウオーキング、サイクリングなどゼロカーボンを意識した体験型観光プログラムの造成・PRにも精力的に取り組んでいます。

「有名な観光資源はないが、これからも特産品の開発やアドベンチャーーツーリズム商品の造成に力を入れていきたい」と鎌田町長は語ります。今後自然・食・観光といった地域資源を活用したまちづくりが進められ、より一層多くの人々を惹きつけることが期待されます。



▲本格的な自家製パンやできたてのピザを提供。黒松内産や道内産の食材がふんだんに使用されている。

### 当日の 知事の言葉から

町の農畜産物を活用した特産品開発の長年にわたるご努力により、地域でしか作れない商品を生みだしています。豊かな自然をいかした体験型観光を発信、提供する拠点として、道の駅が活用され、自然、食、観光が一体となって町の魅力を形作っていることを実感し、多くの刺激をいただきました。



▶懇談時の様子



なのみちカフェ(黒松内町編)の動画はこちらからご覧いただけます。  
(YouTubeチャンネル)



▲令和4年4月にオープン。施設名の「袋澗」は、ニシン漁の礎を築いた親方が石を積み上げて造成した「小さな港」の意味で、移住定住・仕事・交流の場として、小さな港のような役割を果たしてほしいという思いが込められている。移住定住に関する総合的なサポートのほか、町民同士の交流の場としても多くの方々にご利用されている。

## 宗谷編



令和5年6月20日訪問

# 礼文町移住定住・人材交流拠点施設「袋澗」編

次に、礼文島の優れた地域資源を国内外に広く発信し、島への新しいひとの流れを創出する礼文町移住定住・人材交流拠点施設「袋澗（ふくろま）」についてご紹介します。

礼文町では、人口減少対策として、移住定住を推進するため、漁業や水耕栽培など島の就労体験を通じて島民との交流を図り、よりリアルな島での暮らしを体験できるふるさと体験道場「礼文番屋」整備や島への移住を検討されている方を対象とした「移住体験住宅」の整備など色々な島暮らしを体験できる取組を進めています。

さらなる島への新しい人の流れをつくるため、島の総合的な移住・定住の支援体制を図り、移住定住・仕事・交流などを目的とする様々な人々が集まる拠点として、「袋澗」は、町に寄贈された築数十年の商店を島の地方創生拠点整備交付金を活用して改修。令和4年4月に開設しました。

島の空き家情報や仕事紹介などの移住定住相談窓口やワーケーションなどに対応できるコワーキングスペース、シェアハウスなどの機能を有しています。

施設の運営は、町の元地域おこし協力隊の鈴木さんが、管理人として町から業務委託を受け、町の現協力隊員の下元さんとともに運営しています。

移住定住の相談窓口では、移住の決め手となる空き家や求人情報、仕事紹介のため、島の情報を細かくキャッチしながら、島全般の相談などの対応をしています。鈴木さんは、令和4年3月まで町の地域おこし協力隊として移住定住コーディネータをしており、町の移住定住ポータルサイトの更新を手掛けるなど、移住者視点で島の魅力の発信をしています。

移住を希望する方や島民の皆さんとの架け橋として、これからも多くの方に施設が活用されることを期待しています。



▲1階はコワーキングスペース。無料のフリースペースや有料の仕切りのあるプライベートスペース、モニター付きの会議室が可能なミーティングスペースを備え、フリーWi-Fiも利用可能。



▶施設の外觀。商店だった建物を改修して使用。2階は地域おこし協力隊のシェアハウスとして利用。

## 当日の知事の言葉から

移住相談に来られるのは、礼文に行きたいという一歩を踏み出してくれた方です。島の仕事などの情報を人生の岐路にある人たちに届け、島に関心をもってもらおうという役割はとても大きいと思います。



なおみちカフェ（礼文町編）の動画はこちらからご覧いただけます。  
（YouTubeチャンネル）

新連載

# 地域に新たな風を吹き込む

## 地域おこし協力隊へのインタビュー

道内の地域おこし協力隊は、毎年増加し、地域活性化はもとより、地域の担い手確保など、人の流れをつくるきっかけづくりとして定着しています。全道各地で地域に新たな風を吹き込む存在として地域振興の様々な場面で活躍する隊員へのインタビューをシリーズで紹介し、活動を応援します。

### 第一弾

森町  
地域おこし協力隊

木村 一夢さん  
小川 航輝さん



【プロフィール】  
木村一夢さん(右)専門学校でクラフトデザインを専攻。令和3年11月から活動開始。小川航輝さん(左)大学で建築を専攻。令和5年2月から活動開始。

▼森町の協力隊となった経緯を教えてください。

(木村)専門学校時代はクラフトデザインを専攻していて、木工も学んでいました。卒業後も木工のデザイン製作をしていて、専門学校時代にお世話になった先生を通じて、森町から林業をPRする協力隊募集のお話を聞いたのがきっかけです。今後も続けたかったので半年後に森町の協力隊となりました。

(小川)前職は建築会社に勤めており、そこで木材加工の機械を運用管理していました。森町の材木店で機械の運用について見学した際、担当者の方から、森町役場を紹介いただき、そこで協力隊員のお誘いを受けました。森町の林業の取組に興味を持って、お誘いを受けた一年後に森町の協力隊となりました。

▼現在の業務内容について教えてください。

(木村)現在は道産木材の魅力をPRしたり、道産木材を使った製品開発をしています。また、昨年木育マイスターの資格を取得したので、木育活動にも取り組んでいます。

(小川)森町で木製力ヌーを製作している方がいるので、その方の下で力ヌー作りを勉強しています。ゆくゆくは道産木材で作った力ヌーを起爆剤とし、力ヌー

体験などのアクティビティを整備し、森町に滞在する意義を生み出したいと考えています。

▼今後、任期中にどのような活動をしていきたいか教えてください。

(木村)任期終了がだんだん近づいていますが、現在は協力隊の業務をやりながら、色々なプロジェクトに携わっています。活動範囲をより広げ、今後も北海道の木を使った製品作りをしていきたいです。

個人的ではありますが、サウナを作りたいです。

(小川)町内で一次産業に携わっている方々と交流する機会があるのですが、異なる業種の方と関わることで、新しい仕事が生まれることにやりがいを感じています。自分は建築を専攻していたので、そのスキルを還元していきたいです。

▼協力隊の活動を通して感じている町の魅力を教えてください。

(木村)町の人たちはオープンな方ばかりで、協力隊を快く受け入れてくれるので、人の繋がりが非常に濃密だなと感じました。今いただいている仕事も、人づてで紹介してもらったりしているので、何事も人との繋がりが大事だと感じました。

(小川)町の人たちがすごく魅力的で、自分のような協力隊の活動をすごく応援してくれるので、色々な方の支えや応援が

あつて、協力隊活動ができているのだと実感しています。

▼協力隊の任期終了後に森町でやりたいこと、目指したい森町の将来像について教えてください。

(木村)今は色々な所に行つて、新しいことを吸収している段階なので、一時的に町を離れるかもしれませんが、森町の環境は好きなので、今後も森町と繋がっていきたくて思っております。

(小川)協力隊になってまだ半年ですが、今はやりたいことができているし、生活していてすごく心地良い場所なので、任期終了後も森町に定住して、仕事をしていきたいです。



▲小川さんが地元の漁業者とタッグを組んで作成した、市場に卸す魚につけるタグ。このタグを付けたことで市場での価格が上がった。



▶木村さんがクラフトデザインの知識をいかし、杉の木で作成したアクセサリーとボールペン。木に樹脂を染みこませ長く愛用してもらおう工夫を施している。



【プロフィール】神奈川県海老名市出身。玉川大学卒業後、コンサルティング会社で2年間勤務。その後、陸上自衛隊に入隊。二任期（4年間）満了後はリサーチ会社に入社。令和4年11月に Founding Baseに入社し、関係人口・移住定住促進事業を行う。



## 第二弾

### 美幌町 地域おこし協力隊

# 一戸 現貴さん

▼美幌町の協力隊となった経緯を教えてください。

「超直接的に人の役に立つ仕事を経験したい！」という思いから24歳で自衛隊に入隊しました。そこで出会った同期の話を聞くうちに、「まちづくり」や「シビックプライド（郷土愛）の醸成」に興味を持ちました。リサーチ会社に転職後、幅広い企業の調査業務を行う中で、現在所属する企業を知り、実際に社員が地域に移住して関係人口・移住定住促進事業を行うことに興味を持ち、転職を決意しました。提案された勤務地の中から、地域おこし協力隊の業務委託を受ける「美幌町」を選び、昨年11月に地域おこし協力隊として着任しました。

▼現在の業務内容について教えてください。

今年4月にオープンした WorkingSpace KITEENで勤務しています。KITEENはコワーキングスペース兼コミュニティカフェ兼移住相談拠点と複数の機能があります。私は、ワークスペース・イベント運営を通して、交流・関係人口の創出を行うとともに、KITEENにて移住相談も対応しています。当初は、コワーキングスペースやサテライトオフィスの機能としての活用を想定していましたが、地域の方が集う場所として4〜8月で約2500名以上の方にご利用いただいています。



▼今後、任期中にどのような活動をしていきたいか教えてください。

「コワーキングスペースは全国的に飽和状態と言われているので、利用が少ない施設も多い中で「なんかKITEENって場所が盛り上がりつつあるらしいよ」という情報が、SNS等を通じて地方創生やESG投資に興味のある企業の方に認知されて、何かチャレンジをしている人たちの集まることにしたいです。地域の人たちとイベントをやりながら意見交換もできる場所「オホーツクのキープレイス」を目指していきたいです。

▼協力隊の活動を通して感じている美幌町の魅力を教えてください。

「自然と都市機能のバランスの良さ」です。自然度というものを数値にしてみましたとして、大都会の自然度が0〜5、知床や弟子屈といった国立公園が町の面積のほとんどを占める町が100だとします。美幌町の自然度は70くらいかなと思います。大都会の様なきらびやかさはなくても、自然の雄大さを体感出来ますし、知床や弟子屈の自然には勝てない分、都市機能が集約されており不便を感じないバランスの良いまちだと感じています。



▲ イベントの様子  
「窓と車にラクガキ」(上)  
「心をほぐすコーヒー講座」(下)

▼協力隊の任期終了後に美幌町でやりたいこと、目指したい町の将来像について教えてください。

私は委託型の地域おこし協力隊ですが、KITEEN及び周辺地域の活性化を行いながら、任期終了後も美幌町に残り続けたいと考えています。この地域一帯の魅力ができればいいなと考えており、グランピングなどで年に一回必ず美幌町を訪れる観光交流人口をつくりつつ、将来的に二拠点生活やリタイア後にここに住もつかないという人が増えるのがいい流れだと思っています。長い目でみると人口が減っていく日本社会ですが、楽しく過ごしていく人が増えるお手伝いができたら僕としては嬉しいですし、やりがいがあると思っています。

そのためにも今は目の前にある問題・課題を解決し、日々のスペース・イベントの運営クオリティを高めてまいります。



▲ 8月下旬〜9月上旬に運営したグランピング。オホーツク管内だけではなく、道外からの参加者も！地域おこし協力隊インターン3名も運営に参加した。



# ほしい情報がきっと見つかる！ 北海道移住に役立つ情報サイト・SNS

## 移住ポータルサイト 「北海道で暮らそう！」

北海道の市町村情報をはじめ、「しごと」や「住まい」など、暮らしに必要な情報をまとめて発信中！

## ドアーズ,ホッカイドウ DOORS,hokkaido

道内各地のイベント、暮らしやコミュニティ、新しい「かかわり方」を実践する人たちの情報等、北海道の関係人口情報を発信中！

## 北海道移住後の生活費を シミュレーション！

北海道への移住後の生活費ってどのくらい？家賃や光熱費等、生活費のシミュレーションを道内10エリアに分けて掲載中！

## 北海道型ワーケーション ポータルサイト

おひとりでも、会社の皆さまとでも。それぞれの働き方・休み方にあった、北海道だからできるワーケーションを見つけてみませんか？

## 北海道とつながるSNS 公式YouTube「移住だべさ！北海道チャンネル」

北海道の移住イベント情報など随時配信中！まずはSNSで、北海道とつながりませんか？

移住PR動画や移住者インタビュー、北海道の仕事や地域でのワーケーション動画など100本以上公開中！



「創る」バックナンバーは、“ほっかいどう応援団会議ポータルサイト”へ

バックナンバーへ

ほっかいどう応援団会議

URL : <https://hkd-ouendankaigi.jp/info/tukuru.html>